

GOD WITH US

Part 2: Conquest and Chaos

Joshua – Judges – Ruth

9/20/2015

Message 1 – Entering the Promised Land

Joshua 1-4

神は我らと共に

パート2：征服と混乱

ヨシュア記 – 士師記 – ルツ記

ヨシュア記1-4章

はじめに

ヨシュア記は、イスラエルの民がヨシュアの指導下で、約束の土地に入国しカナンを31の王を破り、土地を勝ち取った経緯が記録された物語である。その物語の殆どが特定の紛争や勝利後の12部族の間での土地の振り分けに捧げられているが、ヨシュア記には深いメッセージが込められている。

神学的に、この本は、私たちが従順に信仰を保ち、ヤハウェと共に歩むことについて教えている。イスラエルの征服とアブラハムに約束された土地（創世記12：1-3）の広さの程度は、シナイ山で結ばれたヤハウェとの契約に対する忠実さに依存した。イスラエルの民は契約の条項に忠実であった程度に相応して、主は土地の住民を追い出し、イスラエルはその所有権を得ることができた。一方、もしイスラエルの民が契約に不忠実であった場合、彼らの土地の所持はもっと限定されていたであろう。そして、ヨシュア記は、神との歩みのステップの重要性に関する神学的論文であり、それによって神と私たちが生きて行く中で神のご好意の恩恵を楽しむことができる。

全国的には、神がカナンの国へ強力な証人を送り込まれ、人々が信仰によって神に回すために召されているということがヨシュア記の中で明らかにされている。同時に、神は、何世紀にもわたった彼らの罪深い行動に対する裁決を下され、土地から追放された。しかし、裁決を下されながらも、神はすべての国々の個人に信仰によって神に回ることによって破壊（例：ラハブ）から救われる機会を提供して下さった。

個人的に、この本は、ヨシュア、カレブ、ラハブや他の多くの人々のような信仰の歩みを記録にとめている。この本によって、私たちには、実在した人々が神を信頼し、神のやり方で歩むためにどれだけ苦労してきたかを間近で一瞥する機会が与えられている。この本の中には、指導者としての沢山の教訓（失敗も含め）が記されており、それらは、あらゆる形で指導の立場に召されている私たちにとってたいへん興味深い本である。

神のヨシュアへの委任：1：1-9

開口の委任のところで、神は、約束の土地を既にヨシュアとイスラエルの民に与えられたということを宣言された：ヨシュアの内に働いてくださっている神の邪魔をすることは誰にも出来ない。

あなたが生きながらえる日の間、あなたに当ることのできる者は、ひとりもないであろう。わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にいるであろう。わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。

（ヨシュア記1：5）

しかし、神の保護を受けるためには、満たされなければならない条件がある。シナイ山で神と結んだ契約に従順に歩まなければならない。その上で、神が敵を追放し、土地を継承することができるようにして下さる。

この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。

（ヨシュア記1：8）

これらの箇所では、**強く、また雄々しくあれ（1：6、7、9）**と言うみことばが繰り返して強調されている。しかし、ヨシュアの強さも、雄々しさも決して彼自身の力、知恵、財源から出ているものではなかった。むしろ、み言葉通り、実際に「**あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられ・・・**」（1：9）たのである。

生活の中で頻繁に、私たちの強さと勇気が誤った源から供給されている。自分自身の中から強さと勇気を奮い起こそうとしてしまっているのです。神は

ヨシュアを激励され（ヨシュアに勇気を吹き込まれた）、神ご自身がヨシュアの力の源であるので恐れてはならないと言われた。耐えず聖書は主が私たちの助け人であられ、私たちの力の源であられるということを強調している。しかし、わたしは主を仰ぎ見、わが救の神を待つ。わが神はわたしの願いを聞かれる。（ミカ書7：7）わたしが恐れるときは、あなたに寄り頼みます。わたしは神によって、そのみ言葉をほめたたえます。わたしは神に信頼するゆえ、恐れることはありません。肉なる者はわたしに何をなし得ましようか。（詩篇56：3, 4）私たちに向かって吹き寄せる強風や、打ち寄せる波、また私たち自身にとらわれることなく、神に信頼し神のみに私たちの目を置くとき、真の勇気が育まれる。

ヨルダンを渡る準備： 1：10－18

ヨシュアは、3日以内に民がヨルダンを横断する準備を整えるようにイスラエルの指導者たちに指示を下した。ヨシュアは具体的に、ルベン、ガド、そしてマナセの部族に、彼らが相続を希望しているヨルダンの東側の土地に残るのではなく（参照：民数記32）戦うために兄弟に同行しヨルダンを渡るという約束を思い出させた。以前通り、彼らは兄弟と共に戦う約束をした。

彼らはヨシュアに答えた、「あなたがわれわれに命じられたことをみな行います。あなたがつかわされる所へは、どこへでも行きます。1:17 われわれはすべてのことをモーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。ただ、どうぞ、あなたの神、主がモーセと共におられたように、あなたと共におられますように。（ヨシュア記1：16－17）

主は、全国民が一丸となって勝利を与えたあかつきに、「ヨルダンを超えた」部族は彼らの継承に落ち着くであろう。

ルベン、ガド、マナセ部族は、自分たちの部族の安否のために分離することなく兄弟と共に戦うことを約束した。彼らは古代の「バンド・オブ・ブラザーズ」（密接に繋がった兄弟）であった。古代のイスラエルの民、最初のキリスト教徒は、神の御国のための仕事を進めることに従事したバンド・オブ・ブラザーズとシスターズ（密接に繋がった兄弟姉妹）であった。あなたの密接に繋がった兄弟姉妹は誰でしょうか？あなたの生活、またあなたの隣人の生活の中で誰と重要なコミットメントを共有して神の働きを進めているでしょうか？

エリコに送られたスパイ： 2：1－24

ヨシュアは、二人のスパイを土地に送った。エリコについて特別な注意事項を採集するためであった（v.1）。スパイたちは、主がイスラエルの民を用いて大いなる働きの数々をなされているということを聞いたラハブと言う名の女によって助けられた。

そして彼らに言った、「主がこの地をあなたがたに賜ったこと、わたしたちがあなたがたをひじょうに恐れていること、そしてこの地の民がみなあなたがたの前に震えおののいていることをわたしは知っています。あなたがたがエジプトから出てこられた時、主があなたがたの前で紅海の水を干されたこと、およびあなたがたが、ヨルダンの向こう側にいたアモリびとのふたりの王シホンとオグにされたこと、すなわちふたりを、全滅されたことを、わたしたちは聞いたからです。わたしたちはそれを聞くと、心は消え、あなたがたのゆえに人々は全く勇気を失ってしまいました。あなたがたの神、主は上の天にも、下の地にも、神でいらせられるからです。（ヨシュア記2：9－11）

お互い合意の関係にあった：二人のスパイ：「もしあなたがたが、われわれのこのことを他に漏らさないならば、われわれは命にかけて、あなたがたを救います。また主がわれわれにこの地を賜わる時、あなたがたを親切に扱い、真実をつくしましょう」（2：14）。ラハブ：「あなたがたの仰せのとおりにいたしましょう」。両者ともそれぞれのことばに忠実であり約束を守った。

イスラエルの民の基本的な目的を思い出しましょう：『あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』。その他の国々の人々がヤハウェに信仰を置く機会を持ち救われる機会が得られるためである（参照：出エジプト記19：5, 6）。ここでのラハブの例も、その通りのことが行われた。彼女はエリコに住む娼婦であった・・・が、神とイスラエルの民とのやり取りの中にヤハウェのご性質の証を受けていた。そこでラハブは、イスラエルの神に信頼することを決心した。わたしたちはそれを聞くと、心は消え、あなたがたのゆえに人々は全く勇気を失ってしまいました。あなたがたの神、主は上の天にも、下の地にも、神でいらせられるからです。（2：11）（ヨシュアも神への信仰を描写するために似たような表現を用いたことに注意しましょう：「全地の主なる神」3：11, 13）

こうして、ラハブは二人のスパイをかくまい、そのお返しにイスラエルがその町を侵略した際の保護を求めた。実際、彼女は保護されイスラエルの社会に受け入れられた（参照：6：23-25）。

ラハブの物語は、更に面白くなる！ラハブの名前は新約聖書の中で3度登場する。一度目は、神に信仰を置くということについての模範としてである（ヘブル書11：31）。二度目は、行いによって義とされることについての実証（ヤコブへの手紙2：25）。そして三度目は、最も重要なラハブがイスラエルの著名な指導者と結婚（ボアズの父サーモン参照：ルツ4：21）し、ダビデ王と最終的には救世主イエスの系譜に入った（マタイの福音書1：5）！

旧約聖書の物語は国家レベルで読み込まれており、夜のニュースを見ているかのごとく全国のイベントがカバーされている。しかし、ラハブの物語は起こっていた出来事を個人レベルで垣間見させてくれる。「個人的な関心」の物語を夜のニュースの終わりに挿入されたようなものである。ラハブの物語の中で、神の個人への愛と保護の例を学ぶことができる。神は、全世界の男も女も、やさしい信仰をエクササイズすることによって、神と個人的な関係に入るよう招いておられる。しかし、ラハブの物語の中では、さらに一個人の魂が神に向き回るとき、神が何をしてくださるかを見ることが出来る。神はエリコの娼婦をお使いになり、偉大な信仰を持つ女性へと変えられ、最高の祝福（世界のための救世主であり救い主）を運ぶ者とされた！ならば、神の御子がこの世に来られた際に、取税人や罪びとにも一貫した愛を見せてくださったことは驚くべきことではないであろう。イエス様は「罪びとである女」をもお使いになり、神を愛し信頼するということの真意を示すための例としてお使いになられた（ルカ7：36-50）。イエス様は、昔も今も「罪びとの友」であられる！

ヨルダン川横断： 3：1-4：24

約束の土地を継承するために最初に行ったことは、神の御手による奇跡的なヨルダン川横断であった。このイベントには二つの目的があった：

1) イスラエル国家の新しい指導者としてのヨシュアの役割を確認した（3：7）。2) 神がイスラエルの民の前からカナンの住民を追い払うために戦ってくださることを保証した：そしてヨシュアは言った、「生ける

神があなたがたのうちにおいでになり、あなたがたの前から、カナンびと、ヘテびと、ヒビびと、ペリジびと、ギルガシびと、アモリびと、エブスびとを、必ず追い払われることを、次のことによって、あなたがたは知るであろう。（3：10）祭司たちは、神聖な契約の箱舟を運びながら川の中に立つことによって民の行く道を導くよう指示された。祭司たちが従順に一旦川の中に入ると（信仰の第一ステップ）、水は止まり民が横断した。

注意書き：箱をかく者がヨルダンにきて、箱をかく祭司たちの足が水ぎわにひたると同時に、――ヨルダンは刈入れの間中、岸一面にあふれるのであるが――（3：15）神は、日照りの時期に川をせき止められたのではない；むしろ、奇跡の御業を水位の最も高い時に成された。神が子供たちのために頻繁になさるやり方である。神は、私たちの内で、または私たちを通して神のご栄光が現されるために、私たちの最も絶望の状況の中で最も偉大な御業を行ってください。

この奇跡的イベントを通して、神のご栄光が現されるためだけでなく、また：この日、主はイスラエルのすべての人の前にヨシュアを尊い者とされたので、彼らはみなモーセを敬ったように、ヨシュアを一生のあいだ敬った。（4：14）モーセは、第一世代を導いて紅海を横断した。ヨシュアは、第二世代を導いてヨルダン川を横断した。ヨシュア記の中では、モーセと第一世代、そしてヨシュアと第二世代の間で神の継続的御業が繰り返し強調されている：あなたがたが、足の裏で踏む所はみな、わたしがモーセに約束したように、あなたがたに与えるであろう。（参照：1：3, 5, 7, 13, 17；2：10 f, 2：24；3：7, 11, 15-17；4：10, 14, 23, 24）

あらゆる場所でのリーダーシップにおける影響力（家族、チーム、職場、教会、スモールグループ、等）は、神への忠実さ、謙虚な勇氣、そして従順の結果であることが必要である。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。（ペテロ第一5：5, 6）

イスラエルの民がヨルダン川を横断した後、この出来事を記念し将来の世代たちのために記念石が建てられた。ヨシュアはまたヨルダンの中で、契約の箱をかく祭司たちが、足を踏みとどめた所に、十二の石を立てたが、

今日まで、そこに残っている（４：９）、そしてヨシユアは、人々がヨルダンから取ってきた十二の石をギルガル側に立て（４：２０－２４）、神の忠実さを覚えて、将来の世代のための記念碑として機能している。

イスラエルの人々に言った、「後の日にあなたがたの子どもたちが、その父に『これらの石は、どうしたわけですか』とたずねたならば、『むかしイスラエルがこのヨルダンを、かわいた地にされて渡ったのだ』と言って、その子どもたちに知らせなければならない。すなわちあなたがたの神、主はヨルダンの水を、あなたがたのために干しからして、あなたがたを渡らせてくださった。それはあたかも、あなたがたの神、主が、われわれのために紅海を干しからして、われわれを渡らせてくださったのと同じである。このようにされたのは、地のすべての民に、主の手に力のあることを知らせ、あなたがたの神、主をつねに恐れさせるためである」。

（２１－１４）

私たち（オークポイント教会）がこの施設に移った際、同僚（デビー・ブロンク）が放浪の日々であった最初の１０年に集った全ての土地に戻り、それぞれの土地から石を拾い、組み立て、記念碑を建て、私に贈ってくれた。それを見るたびに、私たち群れを導き、備えてくださった神の忠実さを思い出される。私（ボブ牧師）にとってこの小さな記念碑は、これからも、神が私たちを群れを導き、備えてくださる忠実なお方であることを信じる主要な動機である。神の過去の忠実な御業の数々を記念するあなた独自の方法をお持ちでしょうか？